



イースター(復活節) おめでとうございます

「わたしは、よみがえりです。いのちです。
わたしを信じるものは、死んでも生きるのです。」
(イエス・キリスト)

こんにちは、

皆様お元気にお過ごしでしょうか。私は、結城福音キリスト教会の牧師をさせて頂いている野村正雄です。いつも地域の皆様には大変お世話になり感謝いたしております。

さて、わたしたちの人生の最大問題は、死の問題です。あなたは、この死の問題をどのようにお考えでしょうか。一生の旅路が終わると、誰にも死が到来します。それで全てが終わる。死の向こうには何もない、とお考えでしょうか。

あるいは、死んだ後に永遠に生き続ける新しい命が始まるとお考えでしょうか。もし、死んでしまえば全てが終わりだ、と考えるなら、生きている間に面白く楽しく、したい放題のことをしようと、いわゆる享楽主義、快楽主義に走る人生に陥りやすいのです。

それでは、死んだ後に何もないのでしょうか。聖書には、私たちがこの世の命を終えると、天にある永遠の家に移され、そこで永遠に生きる。と書いてあるのです。(聖書 II コリント5:2)

主イエス・キリストが言われました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」と言われたのです。

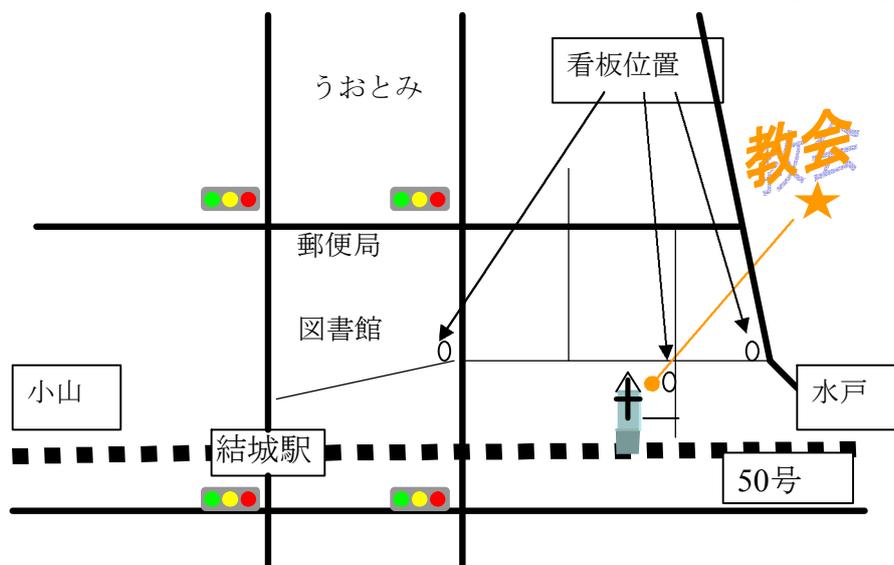
あるとき 12 歳の女の子が重い病気にかかり、危篤状態に陥りました。母親は、非常に悲しんで、少女の枕元で泣いていました。すると少女は澄んだ眼パッチリと開けて「お母さん、泣かないで。わたしはイエスさまのおそばに行くのだから。お母さん、悲しまないで。」と言って、息をひきとったそうです。イエス・キリストを信じ、死んだ後は、永遠の命の世界に入って、神のみもとへ行くことを確信していたこの少女、死ぬことを恐れず、悲しまず、かえって泣いている母親を慰め、あわてることなく、りっぱに死んで行ったのです。

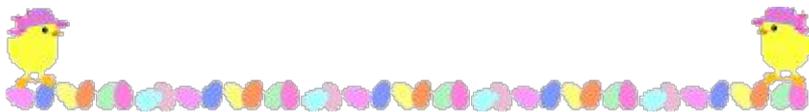
人生は生きている時だけ、死んでしまえば何もない、と考えるのではなく、神の言われる聖書に従って、死後、神のみそばで、永遠に生きることを信じましょう。失望したり、絶望したり、自殺したりしないで、墓の彼方に、天国があることを信じて、希望と喜びに満ちた人生を送って頂きたいと思います。あなたも教会にいらっやいませんか。教会はどなたでも来ることができます。あなたのおいでをお待ちいたしております。

結城福音キリスト教会
牧師 野村正雄

結城市戸張町603
0296-33-4359
<http://ibayuuki.infoseek.ne.jp>

Happy
Easter





「ハレルヤコーラス」だけじゃないよ！

3月になりました。3月の古名である弥生(やよひ)とは、接頭語の「弥」(いや=ますますの意味)と動詞の「生ふ」(おふ=生じる、はえるの意味)が組み合わさってできた言葉だとか。冬の眠りからさめて草や花が成長していく月という訳ですね。そういえば、もう少したてば桜のシーズン。待ち遠しいものです。

さてこの時期、日本では桜の時期にかかりますが、ヨーロッパではイースター(復活節)の時期です。今年のイースターは3月23日。イエス・キリストの復活を祝う礼拝が各地の教会で行われます。日本では年末になるとあちらこちらで例のベートーヴェンの『第九』のコンサートが開かれますが、ヨーロッパではこのイースターのシーズンによくヘンデルの『メサイア』が演奏されます。

『メサイア』といえば、条件反射的に「ハレルヤコーラス」がうかんできます。確かに「ハレルヤコーラス」は崇高でかつ感動的で『メサイア』を代表する曲ですが、でも『メサイア』はなにもこの曲だけというわけではありません。全体に珠玉の名曲ともいべきアリアやコーラスがちりばめられているのです。

例えば第45番目の曲に「我知る、我を贖う者は活く」(I know that my Redeemer liveth)というのがありますが、ある日本の音楽家は、この曲を聞いて、自分の生涯をこの『メサイア』演奏の普及のために捧げる決心をしたとか。それほど感動を与える作品を聞かずに放っておく手はありませんね。このイースターシーズンに『メサイア』全曲を聴くことに挑戦してみたいか、ひよっとするとそのことがあなたの人生を大きく転換させるきっかけになるかもしれませんよ！ちなみに「メサイア」とはヘブル語で「油注がれた者」、つまり「救世主」「救い主」の意味なんですね。



定期集会のご案内

(日曜日)

早朝礼拝式 7:00-8:00

教会学校 9:15-10:15

礼拝式 10:30-11:45

(水曜日)

第一祈り会 11:00-12:00

第二祈り会 19:30-20:30

週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。見ると、石が墓からわきまをころがしてあった。はいって見ると、主イエスのからだはなかった。そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来た。恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。また、ガラヤにおられたころ、お話になったことを思い出さない。人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」女たちはイエスのみことばを思い出した。